

学校に行きづらい子 大人は何ができるか

学校に行きづらい子どもたちのために何ができるのかを探る「未来の教育を考える講演会 in 川棚」が東彼川棚町で開かれ、町内外から教職員や保護者ら約60人が参加した。

有志でつくる実行委が1日に開き、フリースクール代表や現役小学校教諭ら4人の講演、パネルディスカッションがあつた。



フリースクール代表らが登壇したパネルディスカッション
＝川棚町中央公民館

地域の居場所、理解が大切

た。
4人のうち、同町のフリースクール「自由乗校 ゆめまある」の荒瀬奈穂子代表は昨年6月の開設から7カ月を振り返った。「ゆめまあるの仲間と一緒に、学校行事に参加できる」など自信をつけた子もいるという。

フリースクールの意義を「学校外の居場所をいっただん認めてもらうことで、（親も子も）不登校を悲観せず安心が生まれる」と指摘。「家庭や学校だけでは解決が難しいことも、地域の居場所です手を取り合うことで、命と育ちを守りたい」と強調した。

元小学校教諭で南島原市のフリースクール「ピカピカがっこう」の岩村考治代表は「問題行動がある」とされた児童が岩村さんとの交流を通じ、行動が収まったエピソードを紹介。「問題だと思われていたことは、実は個性だった。子どもが自分を分かってくれる大人がいる」と思うことで変化は起きる。環境が人をつくる」と強調した。

（佐崎智章）